

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年11月12日
【四半期会計期間】	第136期第2四半期（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）
【会社名】	太平洋興発株式会社
【英訳名】	TAIHEIYO KOUHATSU INCORPORATED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 幹介
【本店の所在の場所】	東京都台東区元浅草二丁目6番7号
【電話番号】	03(5830)1601(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 上原 與章
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区元浅草二丁目6番7号
【電話番号】	03(5830)1602
【事務連絡者氏名】	経理部長 上原 與章
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 太平洋興発株式会社札幌支店 (札幌市中央区南一条東一丁目2番地1) 太平洋興発株式会社釧路支店 (釧路市黒金町七丁目4番地1) 太平洋興発株式会社帯広支店 (帯広市大通南八丁目1番地1)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第135期 第2四半期連結 累計期間	第136期 第2四半期連結 累計期間	第135期 第2四半期連結 会計期間	第136期 第2四半期連結 会計期間	第135期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(百万円)	11,692	12,613	6,822	6,723	26,088
経常利益(百万円)	451	416	311	225	1,309
四半期(当期)純利益(百万円)	40	387	132	172	606
純資産額(百万円)	-	-	12,306	12,670	12,812
総資産額(百万円)	-	-	34,020	33,434	33,918
1株当たり純資産額(円)	-	-	176.68	182.89	184.46
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	0.59	5.71	1.96	2.55	8.96
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	35.2	37.1	36.9
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	286	798	-	-	2,002
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	480	373	-	-	1,724
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	471	459	-	-	1,183
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	-	-	3,974	3,769	3,734
従業員数(人)	-	-	820	837	800

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には消費税等は含まれていない。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はない。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	837
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向者、嘱託及び臨時雇用者を含んでいない。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	284
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向者、嘱託及び臨時雇用者を含んでいない。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比(%)
その他(百万円)	520	-

(注)上記の金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 商品仕入実績

当第2四半期連結会計期間の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比(%)
商事(百万円)	3,332	-
サービス(百万円)	100	-
報告セグメント計(百万円)	3,433	-
その他(百万円)	320	-
合計(百万円)	3,753	-

(注)上記の金額には、消費税等は含まれていない。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比(%)
不動産(百万円)	641	-
商事(百万円)	3,702	-
サービス(百万円)	1,374	-
報告セグメント計(百万円)	5,718	-
その他(百万円)	1,005	-
合計(百万円)	6,723	-

(注)1.セグメント間の取引については相殺消去している。

- 2.前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりである。なお、当第2四半期連結会計期間の常磐共同火力(株)は、総販売実績の100分の10未満であるため、金額及び割合を「-」表示としている。

相手先	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
常磐共同火力(株)	708	10.4	-	-

- 3.本表の金額には、消費税等は含まれていない。

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び関係会社）が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、一部の業種において業績回復の兆しが見られるものの、急激な円高や個人消費の低迷、雇用情勢の停滞等の継続により、依然厳しい状況が続いている。このような経済状況下、当社グループの当第2四半期連結会計期間の業績は、商事事業の輸入炭販売数量が増加したものの、サービス事業であるシルバー事業等の売上が落ちたことにより、売上高67億23百万円（前年同期比1.4%減）となった。また、利益面については、営業利益1億85百万円（同36.7%減）、経常利益2億25百万円（同27.6%減）となったが、特別損失の債務保証損失引当金繰入額が減少したことにより四半期純利益1億72百万円（同30.0%増）となった。

なお、セグメントの業績は以下のとおりである。

不動産事業

マンション・ビルの賃貸及び管理受託等により、売上高は6億41百万円となり、営業利益は1億20百万円となった。

商事事業

輸入炭の販売等により、売上高は37億2百万円となり、営業利益は1億73百万円となった。

サービス事業

シルバー事業等により、売上高は13億74百万円となり、営業利益は66百万円となった。

その他の事業

消石灰等の製造販売により、売上高は10億5百万円となり、営業利益は19百万円となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は37億69百万円となり、前四半期連結会計期間末に比べ3億63百万円減少となった。また、前連結会計年度末に比べ34百万円増加となった。

なお、当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動等の結果使用した資金は10億81百万円（前年同四半期は2億39百万円の収入）となった。これは主に事業活動によるものである。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動等の結果得られた資金は3億31百万円（前年同四半期は3億48百万円の使用）となった。これは主に固定資産の売却によるものである。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動等の結果得られた資金は3億87百万円（前年同四半期は4億48百万円の使用）となった。これは主に借入金の増加によるものである。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はない。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はない。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はない。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中だった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はない。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はない。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	67,834,489	67,834,489	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	67,834,489	67,834,489	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日	-	67,834	-	3,782	-	1,431

(6)【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	3,090	4.55
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町一丁目1番2号	2,911	4.29
黒田 康敬	北海道士別市	2,351	3.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメンツ株式会社信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	2,340	3.44
シービーエヌワイ ディエフエイ インターナショナル キャップ バリュウ ポート フォリオ (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	1299 OCEAN AVENUE ,11F,SANTA MONICA ,CA 90401 USA (東京都品川区東品川二丁目3番14号)	1,881	2.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,644	2.42
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	1,308	1.92
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	1,015	1.49
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町一丁目2番1号	1,014	1.49
三井不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号	1,000	1.47
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町二丁目1番1号	1,000	1.47
計	-	19,554	28.82

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 24,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 67,719,000	67,719	-
単元未満株式	普通株式 91,489	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	67,834,489	-	-
総株主の議決権	-	67,719	-

【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
太平洋興発株式会社	東京都台東区元浅草二丁目6番7号	24,000	-	24,000	0.03
計	-	24,000	-	24,000	0.03

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	97	109	89	80	77	68
最低(円)	82	75	72	70	59	61

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)における市場相場である。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は次のとおりである。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	釧路支店長及び帯広支店担当	取締役	釧路支店長及び事業開発部、帯広支店担当	丸山 敏徳	平成22年10月1日

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 3,907	2 4,141
受取手形及び売掛金	2,654	3,157
販売用不動産	2 480	2 481
未成工事支出金	2 658	2 537
商品及び製品	2 3,075	2,322
原材料及び貯蔵品	107	132
その他	2 1,520	2 1,538
貸倒引当金	26	34
流動資産合計	12,377	12,277
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,2 4,466	1,2 4,588
土地	2 9,686	2 9,814
その他(純額)	1,2 1,032	1,2 955
有形固定資産合計	15,184	15,358
無形固定資産		
その他	148	123
無形固定資産合計	148	123
投資その他の資産		
投資有価証券	2 2,726	2 3,409
長期貸付金	307	185
差入保証金	2,006	2,003
その他	2 750	2 611
貸倒引当金	66	51
投資その他の資産合計	5,723	6,158
固定資産合計	21,057	21,640
資産合計	33,434	33,918
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,627	2,449
短期借入金	3,115	2,689
賞与引当金	231	219
完成工事補償引当金	24	43
その他	4 2,294	4 1,986
流動負債合計	7,291	7,388
固定負債		
社債	664	566
長期借入金	1,241	1,270

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
受入保証金	4,671	4,659
退職給付引当金	620	605
債務保証損失引当金	644	457
負ののれん	296	395
資産除去債務	236	-
その他	5,096	5,763
固定負債合計	13,471	13,717
負債合計	20,763	21,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,782	3,782
資本剰余金	2,890	2,890
利益剰余金	4,009	3,757
自己株式	2	2
株主資本合計	10,679	10,427
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,233	1,591
土地再評価差額金	489	489
評価・換算差額等合計	1,722	2,080
少数株主持分	268	304
純資産合計	12,670	12,812
負債純資産合計	33,434	33,918

(2)【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	11,692	12,613
売上原価	9,822	10,893
売上総利益	1,869	1,719
販売費及び一般管理費	¹ 1,466	¹ 1,418
営業利益	403	301
営業外収益		
受取配当金	28	33
負ののれん償却額	86	98
その他	39	64
営業外収益合計	154	196
営業外費用		
支払利息	67	55
持分法による投資損失	13	-
その他	25	25
営業外費用合計	106	81
経常利益	451	416
特別利益		
貸倒引当金戻入額	15	-
投資有価証券売却益	-	404
その他	4	45
特別利益合計	20	449
特別損失		
債務保証損失引当金繰入額	344	187
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	240
その他	15	27
特別損失合計	359	454
税金等調整前四半期純利益	112	411
法人税等	² 46	² 56
少数株主損益調整前四半期純利益	-	354
少数株主利益又は少数株主損失()	25	32
四半期純利益	40	387

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	6,822	6,723
売上原価	5,802	5,826
売上総利益	1,019	897
販売費及び一般管理費	¹ 727	¹ 712
営業利益	292	185
営業外収益		
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	2	-
負ののれん償却額	43	49
その他	17	37
営業外収益合計	63	87
営業外費用		
支払利息	34	32
その他	9	14
営業外費用合計	43	46
経常利益	311	225
特別利益		
固定資産売却益	-	43
投資有価証券売却益	-	3
その他	2	-
特別利益合計	2	46
特別損失		
債務保証損失引当金繰入額	162	36
その他	9	13
特別損失合計	171	49
税金等調整前四半期純利益	142	223
法人税等	² 5	² 37
少数株主損益調整前四半期純利益	-	185
少数株主利益	14	12
四半期純利益	132	172

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	112	411
減価償却費	307	344
負ののれん償却額	86	98
固定資産売却損益(は益)	1	44
固定資産除却損	8	9
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	240
持分法による投資損益(は益)	13	-
受取配当金	28	33
受取利息	4	8
支払利息	67	55
投資有価証券売却損益(は益)	-	404
売上債権の増減額(は増加)	967	503
たな卸資産の増減額(は増加)	1,318	847
仕入債務の増減額(は減少)	93	847
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	344	187
その他	123	224
小計	350	757
利息及び配当金の受取額	32	41
利息の支払額	62	51
法人税等の支払額	88	63
法人税等の還付額	53	31
営業活動によるキャッシュ・フロー	286	798
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	436	263
固定資産の売却による収入	20	180
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	7	470
関係会社株式の払込による支出	-	140
定期預金の増減額(は増加)	-	269
その他	70	142
投資活動によるキャッシュ・フロー	480	373

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	100	230
社債の償還による支出	-	16
短期借入れによる収入	2,292	2,839
短期借入金の返済による支出	2,585	2,292
長期借入れによる収入	710	215
長期借入金の返済による支出	995	364
自己株式の売却による収入	113	-
配当金の支払額	99	135
その他	7	14
財務活動によるキャッシュ・フロー	471	459
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	666	34
現金及び現金同等物の期首残高	4,640	3,734
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,974	1 3,769

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用している。 これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は1百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は242百万円減少している。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は236百万円である。

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示している。
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)	前第2四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示していた「定期預金の増減額」は重要性が増加したため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとした。なお、前第2四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「定期預金の増減額」は13百万円である。

	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係)	1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示している。 2. 前第2四半期連結会計期間において、特別利益の「その他」に含めて表示していた「固定資産売却益」は特別利益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することとした。なお、前第2四半期連結会計期間の特別利益の「その他」に含まれる「固定資産売却益」は0百万円である。

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1. 固定資産の減価償却費の算定方法	減価償却の方法として定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっている。
2. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測を利用する方法によっている。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示している。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1. 有形固定資産の減価償却累計額は、13,228百万円である。	1. 有形固定資産の減価償却累計額は、12,984百万円である。
2. 担保に供している資産	2. 担保に供している資産
現金及び預金(定期預金) 439百万円	現金及び預金(定期預金) 439百万円
販売用不動産 2	販売用不動産 2
未成工事支出金 341	未成工事支出金 341
商品及び製品 888	流動資産その他 643
流動資産その他 622	建物及び構築物(純額) 1,588
建物及び構築物(純額) 1,585	土地 5,290
土地 5,389	有形固定資産その他(純額) 68
有形固定資産その他(純額) 69	投資有価証券 168
投資有価証券 142	投資その他の資産その他 206
投資その他の資産その他 206	計 8,748
計 9,687	
この他、以下の資産は銀行借入金を担保するため物上保証に供している。	この他、以下の資産は銀行借入金を担保するため物上保証に供している。
土地 債務者 太平洋炭礦株 330百万円	土地 債務者 太平洋炭礦株 330百万円
3. 偶発債務	3. 偶発債務
金融機関からの借入に対する債務保証が下記のとおりである。	金融機関からの借入に対する債務保証が下記のとおりである。
太平洋炭礦株 8,290百万円	太平洋炭礦株 9,028百万円
4. 流動負債のその他の中に、じん肺補償損失引当金 4百万円が含まれている。	4. 流動負債のその他の中に、じん肺補償損失引当金 4百万円が含まれている。

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
 普通株式 67,834,489株

2. 自己株式の種類及び株式数
 普通株式 24,417株

3. 新株予約権等に関する事項
 該当事項なし。

4. 配当に関する事項
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	135	2.0	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)								
	分譲不 動産 (百万円)	賃貸 (百万円)	商事 (百万円)	輸送 (百万円)	サービ ス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1)外部顧客に対する売上高	186	295	2,751	918	1,670	999	6,822	-	6,822
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	204	182	126	92	16	623	(623)	-
計	187	500	2,934	1,045	1,762	1,015	7,445	(623)	6,822
営業利益又は営業損失()	8	188	2	125	112	26	447	(155)	292

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)								
	分譲不 動産 (百万円)	賃貸 (百万円)	商事 (百万円)	輸送 (百万円)	サービ ス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1)外部顧客に対する売上高	488	580	3,931	1,579	3,248	1,863	11,692	-	11,692
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	410	355	251	159	40	1,219	(1,219)	-
計	489	990	4,287	1,831	3,408	1,903	12,911	(1,219)	11,692
営業利益又は営業損失()	34	377	9	144	218	39	736	(332)	403

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品及び役務の種類・販売市場等の類似性を考慮して区分している。

2. 各区分に属する主要な商品の名称

事業区分	主要商品
分譲不動産	分譲マンション、戸建住宅、住宅地
賃貸	賃貸ビル、賃貸マンション、店舗・設備賃貸
商事	石炭、石油類、建築資材類
輸送	一般貨物自動車運送事業、内航海運業、タクシー業、港湾揚荷役作 業及び鉄道輸送
サービス	シルバー事業、マンション・ビル管理、事務・技術計算の受託、給 食事業
その他	石灰類、管工事業

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）
本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社がないため、該当事項はない。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）
海外売上高がないため、該当事項はない。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び事業を評価するために定期的に検討を行うものである。

当社は、「住」・「エネルギー」・「新規事業」を事業の柱として展開しており、それに関連づけて「不動産」・「商事」・「サービス」の3つを報告セグメントとしている。

なお、各セグメントの事業内容は以下のとおりである。

(1) 不動産セグメント

「住」に関連した、マンションの分譲・戸建・住宅地の販売、マンション・ビルの賃貸及び管理、損害保険代理業、マンション・ビルの建築請負工事を行っている。

(2) 商事セグメント

「エネルギー」に関連した、輸入炭・石油及び建築資材等の仕入販売並びに国内炭の販売受託、また、石炭等の仕入に係る船舶・鉄道・貨物輸送及び揚荷役作業を行っている。

(3) サービスセグメント

新規事業に関連した、有料老人ホームの運営、事務・技術計算の受託、コンサルタント業、給食事業、ビル・店舗の清掃及び造園緑化事業、中古本販売店、ゴルフ練習場の運営、産業廃棄物処理、タクシー業を行っている。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	不動産	商事	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,290	6,684	2,732	10,708	1,905	12,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	130	415	189	736	45	781
計	1,421	7,100	2,922	11,444	1,950	13,394
セグメント利益	216	270	144	631	37	669

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	不動産	商事	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	641	3,702	1,374	5,718	1,005	6,723
セグメント間の内部 売上高又は振替高	66	221	118	406	19	426
計	708	3,923	1,492	6,125	1,024	7,149
セグメント利益	120	173	66	359	19	379

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種機械及び電気設備等の製造修理、炭カル肥料・消石灰・石粉の製造販売を行っている。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容（差異調整に関する事項）

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	631
「その他」の区分の利益	37
セグメント間取引消去	7
全社費用（注）	360
四半期連結損益計算書の営業利益	301

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	359
「その他」の区分の利益	19
セグメント間取引消去	6
全社費用（注）	188
四半期連結損益計算書の営業利益	185

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門に係る費用である。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はない。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用している。

（1株当たり情報）

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 （平成22年9月30日）		前連結会計年度末 （平成22年3月31日）	
1株当たり純資産額	182.89円	1株当たり純資産額	184.46円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第2四半期連結累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）		当第2四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）	
1株当たり四半期純利益金額	0.59円	1株当たり四半期純利益金額	5.71円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。	

（注）1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益（百万円）	40	387
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益（百万円）	40	387
期中平均株式数（千株）	67,504	67,810

前第2四半期連結会計期間 （自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）		当第2四半期連結会計期間 （自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）	
1株当たり四半期純利益金額	1.96円	1株当たり四半期純利益金額	2.55円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。	

（注）1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(百万円)	132	172
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	132	172
期中平均株式数(千株)	67,813	67,810

(重要な後発事象)
該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月13日

太平洋興発株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 俊典 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 玉井 哲史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太平洋興発株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手續により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平洋興発株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月12日

太平洋興発株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 玉井 哲史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 定留 尚之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太平洋興発株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手續により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平洋興発株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。